

データ透過モード（通信モード 2: 常時接続モード）

1. システム構成

送信するデータをフリーフォーマットで入力して、送信します。

設定はメモリレジスタで行い、1:1 通信のみ可能です。

ペアとなる無線モデムの電源を ON すると、自動的に無線回線が接続され、常時接続された状態になります。



2. スイッチ設定

ディップスイッチは、SW No. 8 のみ ON、ロータリースイッチは、「0」にします。

3. レジスタ設定

パソコンと無線機を RS232C ストレートケーブルで接続して、Futaba Term などのターミナルソフトを使い、REG コマンドでレジスタを設定します。

【モデム 1】	
REG00:00H	(アドレス 0)
REG01:F0H	
REG02:01H	(宛先アドレス 1)
REG03:01H	
REG04:00H	
REG05:00H	
REG06:00H	(周波数ホッピングパターン 0)
REG07:05H	
REG08:11H	
REG09:13H	
REG10:40H	
REG11:32H	
REG12:B4H	
REG13:1EH	
REG14:00H	
REG15:01H	(コマンド認識インターバル: 0.1sec)
REG16:32H	
REG17:32H	
REG18:0DH	(データ透過モード、常時接続モード、宛先アドレスチェックを行う)
REG19:40H	(マスター局、ダイバシティ受信を行う)
REG20:07H	(RS232C: 38400bps, 8bit, パリティなし 1stop bit)
REG21:09H	
REG22:00H	
REG23:00H	
REG24:00H	
REG25:0DH	
REG26:0AH	
REG27:00H	
REG28:00H	
REG29:00H	
REG30:00H	
REG31:00H	

【モデム 2】	
REG00:01H	(アドレス 1)
REG01:F0H	
REG02:00H	(宛先アドレス 0)
REG03:01H	
REG04:00H	
REG05:00H	
REG06:00H	(モデム 1 同様)
REG07:05H	
REG08:11H	
REG09:13H	
REG10:40H	
REG11:32H	
REG12:B4H	
REG13:1EH	
REG14:00H	
REG15:01H	(モデム 1 同様)
REG16:32H	
REG17:32H	
REG18:0DH	(モデム 1 同様)
REG19:42H	(スレーブ局)
REG20:07H	(モデム 1 同様)
REG21:09H	
REG22:00H	
REG23:00H	
REG24:00H	
REG25:0DH	
REG26:0AH	
REG27:00H	
REG28:00H	
REG29:00H	
REG30:00H	
REG31:00H	

《注意事項》

- レジスタを設定する前に、無線機を初期化することをお勧めします。
- レジスタ設定を反映させるには、@RST コマンド、又は電源再投入を行ってください。
- シリアル通信条件を変更した場合、PC ターミナルソフトのボーレート、パリティ、スタート/ストップビットを設定した値に合わせてください。

4. 通信手順

2 台のモデムの電源を投入すると、無線の接続処理が自動で行われます。
接続が完了すると、LED の“C0”が緑点灯になり、通信が可能になります。

モデム 1 から、モデム 2 への通信

[モデム 1]> HELLO

[モデム 2]< HELLO

《注意事項》

- 送信データが有る／無しに関わらず、常に電波を出しています。(ピンポン伝送)
- LED はデータを入力していないときは、C0 が緑点灯、スレーブの PW が橙点灯で、それ以外は赤点灯になります。データ入力時は送信側の SD が緑点灯して、送信が終わると赤点灯に戻ります。
- LED の C0 が赤点灯のときは、通信できません。
- コマンドヘッダは有効です。コマンドヘッダをデータとして送信する場合は、コマンド認識インターバル (REG15) を適切な値に設定してください。詳細は、取扱説明書をご参照ください。